

道岳連だより

広報 NO59
平成22年10月30日
北海道山岳連盟

<http://www.hokkaido-haa.net/>

登山活動も いよいよ冬期へ

北海道の冬を楽しもう

今夏の異常な高温気象も終わり、だんだん寒くなってきました。いよいよ冬期の活動に移っていきます。北海道の冬は大変厳しいが、事故に対する備えを十分整え有意義に活動していきましょう。

平成19年初冬のカミホ口の雪崩事故そして昨年夏のトムラウシ遭難事故は私達には今でも忘れることができません。今年7月、トムラウシ山遭難事故を検証するためのシンポジウムが開催されました。このシンポジウムの概要を本号で取り上げましたのでご覧下さい。

今後の諸行事

◎「自然保護指導員」の認定・更新手続き が2月に開始されます

詳細は 道岳連HP (<http://www.hokkaido-haa.net/>) 自然保護委員会ページ参照

◎安全で楽しい登山のためのシンポジウム ・ ・ 北見市と旭川市で開催 ・ ・

主催 北海道警察、北海道教育庁、北海道山岳連盟



日時：北見会場

10月30日（土）午後1時～4時

日時：旭川会場

11月7日（日）午後1時～4時

参加費：無料

詳細は道岳連HPに掲載

(<http://www.hokkaido-haa.net/>)

「北見会場」 問い合わせ：道警 北見方面本部地域課（0157-24-0110 内3522）

会場 北見工業大学C122講義室（北見市公園町165番地）

- | | | | |
|----|-------------------|----------------|-------|
| 内容 | 1) 山岳遭難の発生状況と救助体制 | 北海道警察本部 | 村上 富一 |
| | 2) 登山者とヒグマ対策 | 知床財団保護管理研究係長 | 小平真佐夫 |
| | 3) 低体温症の危険性と対策 | 北見赤十字病院麻酔課科副部長 | 佐藤 順一 |
| | 4) 質疑応答コーディネータ | クーラカンリ代表 | 増子 麗子 |
| | 5) ヘリコプター救助の現場から | 北海道警察航空隊 | 高畑 英樹 |

「旭川会場」 問い合わせ：道警旭川方面本部地域課（0166-35-0110 内3543）

会場 旭川市総合防災センター（旭川市東光27条8丁目）

- 内容
- | | | |
|----------------------------------|------------------|-------|
| 1) 山岳遭難の発生状況と救助体制 | 北海道警察本部 | 村上 富一 |
| 2) ヘリコプター救助の現場から | 北海道警察航空隊 | 高島 英樹 |
| 3) 十勝岳エリアにおける冬山遭難事故防止 | | |
| 冬山遭難事事故例からの教訓：装備の重要性 | 三段山クラブ代表 | 大西 人史 |
| 4) 気が抜けません山の気象 | 旭川地方気象台 防災気象官 | 西 龍治 |
| 5) 応急手当要領（実技） | 旭川市南消防署東光出張所救急隊 | |
| 6) パネリストとの質疑応答 | コーディネータ：旭川山岳会 会長 | 土屋 勲 |
| 7) 北海道警察のヘリコプターによる公開救助（ヘリポートで実施） | | |

◎山岳スキー指導員研修会

- | | | | |
|-------|---|------|----------------|
| ・期 日 | 12月18日（土）、19日（日） | ・場 所 | 札幌国際スキー場・朝里岳周辺 |
| ・参加対象 | 山岳スキー指導員 | ・参加費 | 未定 |
| ・内 容 | 山岳スキー指導技術の研修 | ・申 込 | 藤木晴夫、荒堀英雄 |
| ・詳 細 | 道岳連HP (http://www.hokkaido-haa.net/) 指導委員会のページ参照 | | |

◎冬期遭難対策研修会(指導委員会、遭難対策委員会合同)

- | | | | |
|------|---|------|-------|
| ・期 日 | 12月25日（土）、26日（日） | ・場 所 | ニセコ山系 |
| ・詳 細 | 道岳連HP (http://www.hokkaido-haa.net/) 遭難対策委員会のページ参照 | | |

◎冬期ジュニア登山教室

- | | | | |
|-------|---|------|------------------|
| ・期 日 | 1月9日（日）、10日（月） | ・場 所 | 深川青年の家 ゆーすくる・おとえ |
| ・参加対象 | 小中学生の以上の児童生徒及び保護者の方 | | |
| ・参加費 | 子供4,000円、大人6,000円（食事3食、保険代、資料代） | | |
| ・内 容 | クライミング・講義、スノーシューハイクとテント設営体験 | | |
| ・申 込 | ジュニア担当：増子麗子まで TEL・FAX（0157）61-9960 | | |
| ・詳 細 | 道岳連HP (http://www.hokkaido-haa.net/) 普及事業委員会のページ参照 | | |

◎山岳スキー技術講習会

- | | | | |
|-------|---|------|---------------|
| ・期 日 | 1月15日（土）、16日（日） | ・場 所 | カムイスキーリンクス・深川 |
| ・参加対象 | 道岳連会員 | ・参加費 | 未定 |
| ・内 容 | 山岳スキーの実践、セルフレスキュー等 | | |
| ・申 込 | 芳澤昭仁、秋元節雄 | | |
| ・詳 細 | 道岳連HP (http://www.hokkaido-haa.net/) 指導委員会のページ参照 | | |

◎氷雪技術研修会(海外登山委員会と指導員会の合同研修会)

- | | | | |
|-------|--|------|-----|
| ・期 日 | 1月22日（土）、23日（日） | ・場 所 | 層雲峡 |
| ・参加対象 | 道岳連会員 | ・参加費 | 未定 |
| ・内 容 | アルパイン氷雪技術の習得 | | |
| ・申 込 | 工藤 寛、明田通世 | | |
| ・詳 細 | 道岳連HP (http://www.hokkaido-haa.net/) 海外委員会ページ参照 | | |

◎競技部フロック研修会

- ・期 日 2月上旬
- ・場 所 深川青年の家
- ・詳 細 道岳連HP (<http://www.hokkaido-haa.net/>) 競技部ページ参照

◎山岳スキー技術講習会

- ・期 日 2月5日(土)、6日(日)
- ・場 所 三段山・白銀荘
- ・参加対象 道岳連会員
- ・参加費 未定
- ・内 容 山岳スキー講習会、検定会
- ・申 込 藤木晴夫、森 紘昭
- ・詳 細 道岳連HP (<http://www.hokkaido-haa.net/>) 指導委員会ページ参照

◎山岳スキーツアー

- ・期 日 2月19日(土)、20日(日)
- ・場 所 ニセコアンヌプリ周辺・五色温泉
- ・参加対象 道岳連会員
- ・参加費 未定
- ・内 容 雪崩ビーコン操作、冬山スキーツアー
- ・申 込 藤木たか子、秋元節雄
- ・詳 細 道岳連HP (<http://www.hokkaido-haa.net/>) 指導委員会ページ参照

◎山岳スキーツアー

- ・期 日 3月4日(金)～6日(日)
- ・場 所 八甲田山・高田大岳
- ・参加対象 道岳連会員
- ・参加費 未定
- ・内 容 冬山での非常時対策、八甲田山系冬山スキー
- ・申 込 藤木たか子、濱崎美佐子
- ・詳 細 道岳連HP (<http://www.hokkaido-haa.net/>) 指導委員会ページ参照

◎活性化研修会(指導委員会・普及事業委員会合同)

- ・期 日 3月12日(土)、13日(日)
- ・場 所 日高青少年自然の家
- ・詳 細 道岳連HP (<http://www.hokkaido-haa.net/>) 普及事業委員会のページ参照

諸行事の報告

◎海外登山の情報

日山協 平成22年度国際委員会総会・海外遭難対策研究会 報告

6月19日(土)～20日(日)にかけて栃木県・日光市営交流促進センターで開かれました。

以下、報告を致します。海外登山に興味ある方など詳細を知りたい方は工藤までご連絡下さい。

1、国際委員会総会 報告

- ・日山協の組織改編で登山部の下部として国際部より国際委員会と名称変更。
- ・50周年事業「ザ・エベレスト・デー」(4/24)は320名の参加者があった。
- ・第24回海外登山女性懇談会は50周年事業「ザ・ヒマラヤ・デー」(12/5)と兼ねて実施。
韓国の8km14座登頂女性を招聘したい。
- ・各府県の海外登山は波がある。登山は、岳連単位は少なく山岳会単位。

2、海外遭難対策研究会 報告

- ・講演1「ヒマラヤにおける気象予報を活用した登山」 隊長・保坂氏
北日本海外登山研究会2009年K2登山隊報告。
現地の観測状況なども送りかなりの精度で予報は当たった。
- ・講演2「ヒマラヤにおける最新気象技術」 (株)メテオテック・ラボ猪熊氏
上記K2登山隊の予報担当の気象予報士兼元登山家(本人談)
ヒマラヤを問わず日本の山岳についてもかなりの精度の予報可能
日本全国15エリア(利尻・大雪・飯豊・谷川他)の山の天気予報を有料(月額315円)にて提供中(携帯ウェブやHP、メールにて)。
ヒマラヤの場合1ヶ月21万円、1ヵ月半25万円。デジカメ画像や目視でBCと上部の天気や雲量などの現地情報を送ると精度はあがる。
(北海道山岳連盟海外登山委員会 委員長 工藤 寛)

◎沢登り・登攀研修会

今年度の沢・登攀研修会は7月10日(土)～11日(日)にかけて道立深川青年の家と旭川市豊里・オロエン沢で行いました。

講習内容は、①制動確保技術 ②懸垂下降技術 ③へつり・高巻き技術(クライミングボードにて) ④実践沢登りとして、沢歩き・渡渉方法・へつり・高巻き・スローバック救助・ザック泳法、懸垂下降・フィックスロープ登などでした。参加者25名、役員講師9名、計34名で大変盛況でした。

『記事』

天気がポツリポツリの雨模様の中、各地から深川青年の家に皆さんが集合しました。オリエンテーション後に早速、二班に分かれて研修会が始まりました。

制動確保訓練に使う電動ウィンチは『日山協』から借り、難しい確保に挑みました。

“深川青年の家”のクライミングボードも使い、へつり・高巻きのホールド&フットワークを体験いたしました。明日の天気を願い、実情交流会は盛大に実施しました。

翌朝は願いが通じて晴れそうな曇り空、地元旭川山岳会の矢野さんの案内で「オロエン川」に入渓しました。あまり大きくない沢ですが小振りな各要素が凝縮された様な沢です。

様々な沢訓練を実施して存分に「オロエン沢」を堪能し、全員が怪我無く沢を下降しました。

(指導委員会副委員長 藤木 晴夫)



◎トムラウシ山遭難事故を考える

北海道シンポジウム

当北海道山岳連盟と北海道勤労者山岳連盟、日本山岳会北海道支部、北海道山岳安全セミナーの合同主催で「トムラウシ山遭難事故を考える北海道シンポジウム」が、去る7月11日(日)東札幌の「札幌コンベンションセンター」小ホールで開催されました。

道内山岳関係者や登山愛好者、報道関係者、警察関係者など180名が集まり、日本サーチアンドレスキュー研究機構代表で関西大学教授の青山千影氏、苫小牧東病院副院長船木上総医師、大橋政樹山岳ガイド(新得町在住)の3氏の報告提言を熱心に視聴した。

青山千影氏は、ガイドの資質・行動、ツアー参加者の状況、ツアー会社の要因を詳細に分析した。ガイドについては、様々な要因からの作用ベクトルが最も多く集中していて、安全確保と客に対する管理責任の負担が大きいにも関わらず、ガイドキャリアや低体温症等の知識が低く、安全への意思決定・判断に大いに問題があったと指摘した。特に低体温症で動けない者がでたロックガーデンが引き返しの限界点だったのにも関わらず、引き返しの判断を考えなかったことが直接の原因であるとした。また同情要因として、低い賃金でこれだけの責任とリスクを負わせ、ガイドを間接的に支配するツアー会社の処遇にも言及した。

参加者については徹底した「おまかせ意識」で、例えば体調などの自己責任意識が希薄であった点に問題があった。因みに、北沼分岐で死者がでるまで、ガイドへの異論が出なかったという。また、2002年の同じ月に、同じトムラウシ山で同じような遭難が起きていることがツアー参加者に知らされていないことも、ツアー会社の対応として問題と指摘した。知っていたら参加者の意識・覚悟がもっと違ったものになっていただろうと述べている。

結論として、ツアー登山の計画などについて、第三者のチェック機関が必要であると提言した。つまりツアー登山を企画する会社が安全登山に配慮した運行がなされているか調査し、問題業者には改善命令が出せるような組織が

ほしいとの提言である。

船木医師は、低体温症の権威である。今年7月初に行った検証登山のデータを参考に本遭難の検証を行った。

この検証登山で、環境変化や行動において皮膚温度は変化しても体内温度（コア温度）は大きな変動が無いという常識は当てはまらないことに驚いたという。船木氏は低体温症の要因は、熱喪失としての風・濡れ・低温であり、熱産生としての食料・運動であると定義づけ、青山氏と同じく、参加者の証言や状況からおそらくロックガーデンが低体温症を回復する限界点だったと推定した。そして、アルミシートなどの装備の優劣、小まめな食糧補給などの差異が参加者の生死を分けた一因であると指摘した。

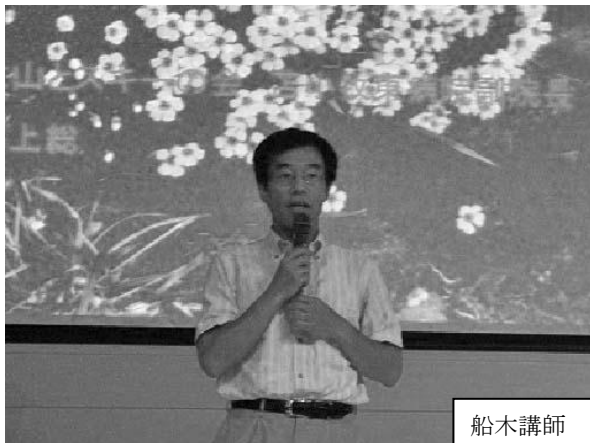
大橋氏は、ガイドとしてリーダーシップがとれることが最も大切であり、その中で危険な場合に顧客へ理解納得のさせ方が意外に重要であると話した上で、稜線からロックガーデンまでの行動時間が予定の倍以上かかっていることから判断して、青山・船木両氏の指摘と同じ地点での引き返し判断ができなかった点を問題にした。また大橋氏は、顧客の山やコースへの明確な希望に対応するのがガイド登山と違い、会社が立てた計画に無差別に希望者が応募するのがツアー登



熱気溢れる会場



青山講師



船木講師



大橋講師

山だと定義した。そしてそれは顧客とガイドの信頼関係の構築について根本的な違いだと述べ、ツアー登山の問題点のひとつだと指摘した。

全体討論は、低体温症ではきちんと理解していないと大変な事になる、悪天候時の行動はやめると云うことを徹底しないとまた事故がおきる、本州と北海道の気象気温の違いをきちんと理解させること、旅行日程の変更に伴う保険の創設をという提案、ウェアの件等、特に雨具の検証をしてほしい、登山と旅行のあいだをあいまいにしてはだめではないか等、1時間の中で沢山の発言があった。

3時間に及ぶ熱心なシンポジウムは、結論や提案などのまとめはなかったものの、ツアー登山から一般の登山に及ぶあらゆる登山についての多くの教訓と示唆に富んだものになった。このような遭難事故を二度と起こしてはならないという決意が会場全体を包んだ素晴らしいシンポジウムとなった。

◎中高齢安全登山講習会

三年越しの北戸蔦別岳



北海道山岳連盟普及事業の中心と位置づけられている中高齢安全登山講習会は、中高齢の一般登山愛好家45名の参加を得て7月17日（土）～19日（月）（二泊三日）の日程で、国立日高青少年自然の家を拠点に日高山脈の名峰「北戸蔦別岳」登山をメインとして開催しました。

1日目は、神山講師（理事長）の「地形図の見方・コンパスの使い方」では、「登山には道に迷わないこと、その為には地形図・コンパスを携行すること、迷った時には元の場所まで戻るの



充実した講義でした

のが大切である」事を教わりました。明田講師（指導委員長）の「アクシデント対策」では、「低体温症のこと、ツェルトを使っての危険脱出、ストックを松葉杖に早変わりさせる等」自己を守る術を教わりました。



「2日目」は、北戸蔦別岳を目指して登山。あいにくの霧雨の中を雨具着用での歩行は蒸し暑く体力の消耗が激しかった。更に沢の横断や急斜面の上り下りで途中リタイアしたり足をつったり中高年にとって厳しい登山に成りました。

稜線は濃いガスと強い風で視界はきかず、ヌカビラ岳まで到達出来ましたが時間切れとなり下山を余儀なくされました。

急斜面の岩場ではイワギキョウやミヤマオダマキ、稜線ではウズラバハクサンチドリやツガザクラ、エゾノハクサンイチゲ等々多くの高山植物に迎えられ、辛い登山も和

みのひとときを得られ満足して頂けたと思います。

一人の怪我人も無く成功できたことは、道岳連スタッフの並々ならぬお世話の賜であると、この場を借りて感謝申し上げる次第です。

登山後、沙流川温泉で汗を流し、懇親会では登山の疲れを忘れ遅くまで語り合ったようです。まさに中高年パワー全開の1日でした。

「3日目」は、新井講師（普及常任委員）の「夏山登山装備」では、「遭難しない為に最低必要な装備」の紹介、小野講師（道岳連会長）の「登山は生涯の楽しみ」と題した講演で締めくくり、参加者皆さんに記念の「修了証」をお渡しして散会しました。

「反省点」

日高山脈の主峰、幌尻岳と北カール更に戸蔦別岳や北・中央日高を一望出来る魅力が人気の北戸蔦別岳はやはり中高年にとって厳しい山でした。中高年事業としては三年越しでしたから是非実現させたい願望が強かったことでもあります。次年度からはもう少し易しい山を選択すべきと感じました。

（普及委員長 荒堀英雄）

一般参加者のおもいで

ヌカビラ岳の思い出

恵庭市 石塚 健夫さん

私は中高年安全登山は、連続3回目の参加です。前夜（17日）は期待に胸を躍らせましたが、当日は早朝まで大降りの雨で、寝床の中でどうなるかなと思っていましたが、ウトウトとした3時半ころ起床しました。時々パラパラと降る中を宿舎を出ました。

45名の参加者は、6時過ぎ北電取水口に到着。装備を整え直して出ようとした時に雨が降ってきて、急いでカッパを着込み6時40分ころ出発しました。最初からカッパを着ての行動に団体行動ということもあり、その上我が班はかなりペースも速く、写真やメモをとる暇はありません。雨は時々強くなったり弱くなったり繰り返して、体の方は汗でひどい状態でした。



二の沢出合いまで1km、比較的緩やかで歩き易い左岸の道でした。昨夜からの雨にもかかわらず増水もなく、7時半過ぎに二の沢出合に着きました。初めは傾斜の緩やかな二の沢でしたが、だんだんと狭くて険しい沢となり、傾斜も強くストックは邪魔な状態となりました。なにしろカップを着ているのでグチグチで、かなり疲労も感じられるようになり3回くらい休憩をとりました。鉢巻にしていた日本手ぬぐいや軍手を絞ると水が流れ出しました。

約10ヶ所ばかりの徒渉を繰り返し、標高1000m近くで尾根の取り付きに9時半過ぎに着きました。二の沢出合から約1kmの距離ですが2時間近く掛かりました。

空模様は相も変わらず雨模様で風もなく、蒸暑い状態です。尾根は針葉樹と広葉樹の混合林で急斜面が続く、ジグザグや直登が続くまさに「胸突き八丁」でした。休憩も多くなりました。更に登山道にはヒグマの糞もあり、単独ならば引き返すところでしょう。しかし、標高1280mくらいの所で「トッタの泉」というチョロチョロですが素晴らしく美味しい水に出会い、たらふく飲んで生き返りました。水筒に詰め替えた水は帰りも含めて1リットルは飲んだでしょうか。ここまで尾根に取り付いてから約1時間、10時半は越えておりました。

尾根はダケカンバからササやハエマツに変わり始め、風も流れてきて気分が良くなり、急な坂道を一気に登ると稜線に出ました。稜線では雨が上がっていましたが冷たい風が吹きぬけ、濡れた下着を替えないと「低体温症」になるような状態でした。しばらくして三角点のあるヌカピラ岳(1808m)に到着しました。約5時間かけての登頂でした。

この先の北戸蔦別岳へはパーティ全体の状況と時間から判断して、リーダーは諦めたようです。

早々に記念写真を撮った後、冷たい風を避けて少し下がり昼食となりました。そこは「ヒグマの掘り起こし」がいたるところにありましたがお構いなく、参加者は満面の笑みを浮かべて写真を取り合っていました。

帰路は約4時間かけてきた道に戻り、全員無事に下山しました。

宿舎に戻ってから浸かった温泉で疲れが癒されました。その夜の懇親会のお酒の美味しかったことといたら、例えようがありません。

大変貴重な登山を実施していただいた北海道山岳連盟、及び関係者の皆様に心からお礼を申し上げます。



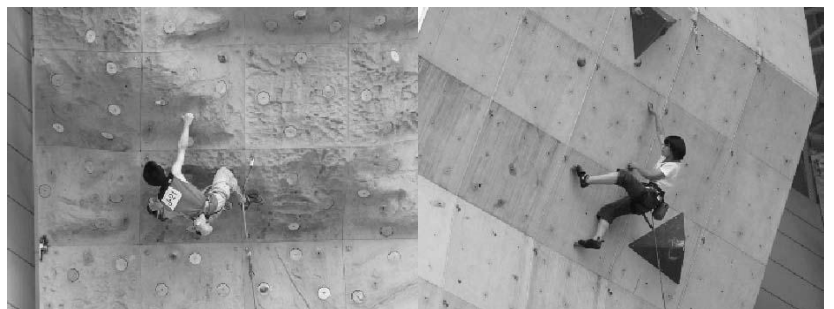
登山後の楽しい懇親会

◎JOC ジュニアオリンピックカップ大会

北海道の層の厚さを証明

8月13日から15日まで、富山県南砺市で開催された、クライミングの第13回JOCジュニアオリンピックカップ大会に参加しました。

大会全体を振り返ると、男子は3カテゴリーで決勝進出を果たし、北海道の層の厚さを証明することができました。女



子は2人の力が道内で抜きん出ており、全国でも十分通用することを示すことができたが、全国の登りを見て、国体少年女子世代の強化が非常に遅れていることを痛感しました。今回、予選を通らなかった選手も決勝でサポート、応援し、「チーム」で戦う意識を持って大会に臨めました。今後もこのように選手同士が切磋琢磨し、またサポートしあって北海道クライミング界を盛り上げて欲しいと思います。

◎選手の成績は以下の通りです

男子ジュニア（平成3年、4年生）	杉本 怜（4位）、大泉 直也（18位）
	三上 晃平（28位）、橋本 亮平（29位）
男子ユースA（平成5年・6年生）	菅原 亨介（8位）、中村 浩貴（29位）
男子ユースB（平成7年、8年生）	佐藤 嘉晃（5位）
女子アンダー（平成9年、10年生）	小武 芽生（2位）、佐々木里穂（6位）
ユースB	

（競技委員 畑野 和宏）

◎ 国民体育大会(ゆめ半島千葉国体)報告

総合成績天皇杯4位、皇后杯8位入賞

10月2日から4日、千葉県印西市で開催されました。選手たちは今年もがんばってくれました。総合成績は天皇杯4位、皇后杯8位。去年、北海道山岳競技史上初の天皇杯連続入賞だといって喜んでおりましたが今年は3年連続になりました。

選手のがんばりはもとより、これも皆さんのご支援のお陰です。

少年男女とも残念ながら予選落ちでしたので、今



3年連続入賞、おめでとう

後は少年の強化に一層力を入れて成年の後を継げるように指導していきたいと思います。

「出場選手の紹介」

成年男子（監督：石井昭彦）

今年から成年選手となった杉本怜、経験豊富な國谷斗馬選手の二人である。どこまで全国に通用するのか、期待される場所である。

成年女子（監督：一安敏文）

昨年とメンバーが替わり、萩原亜咲、坂本瑛子選手である。萩原はワールドカップにも参戦する日本トップレベルの実力がある選手である。一方の坂本は、今までに一度も大会等のコンペに出たことがなく、ボルダリングの実力は道内でも



トップクラスであるが、大会経験のないことが不安要素であった。

少年男子（監督：木村宣幸）

国体初参戦の高校3年菅原亨介と高校1年佐藤嘉晃の両選手である。菅原はJOCジュニアオリンピックカップでも決勝に残るなど、ここ1年でレベルを上げ国体選手となった。一方の佐藤は中学時代から北海道のジュニアを代表する強い選手で、年齢的によろやく国体に参戦できることになった。この二人で上位入賞が期待される。

少年女子（監督：畑野和宏）

昨年とメンバーが替わり、高田未来、大泉彩である。高田は高校1年生で、今年からクライミングを始めた選手。一方の大泉も高校1年生で、クライミングを始めて間もない選手。高校1年生コンビがどこまで通用するのか未知数なところがあった。

大会結果は下記の状況です。少年男女は残念ながら予選敗退でした。

▼成年男子：決勝進出：ボルダリング 2位	リード 4位	
▼成年女子：決勝進出：ボルダリング 1位	リード 8位	総合成績
▼少年男子：予選落ち：ボルダリング 13位	リード16位	▼天皇杯：4位入賞
▼少年女子：予選落ち：ボルダリング 18位	リード18位	▼皇后杯：8位入賞

「決勝の健闘状況」

成年男子ボルダリング決勝

決勝第1ステージ、第1課題はほぼ全員が1トライ目で完登、第2課題のでき次第で第2ステージ進出が決まる。杉本が第2課題をただ一人完登し、第1ステージ1位通過した。



喜びの杉本君、ボルダリング1位

第2ステージでは杉本が第3課題を2撃する。國谷もボーナス1を獲得。第4課題が難しく、杉本がボーナス1を1トライ目で獲得したものの、それ以上は無理だった。結果は杉本が個人1位、國谷が個人8位で、チーム順位は2位と予選より成績を上げる結果となった。

成年女子ボルダリング決勝

まずは第1ステージ2課題が行われた。第1課題は難しく、どの県もボーナス1すら取れない。第2課題のでき次第で第2ステージに進めることになったわけであるが、萩原が5トライ目に完登を決め、坂本が3トライ目にボーナス

2を獲得し、第1ステージを1位で通過した。

決勝第2ステージでは、第3課題を萩原が1トライで完登、坂本も2トライで完登した。第4課題は萩原がボーナス1を4トライ目に獲得し個人2位、坂本はボーナスを取ることはできなかったが個人4位でチーム順位1位、北海道成年女子が初優勝を決めた。

成年男子リード決勝

予選7位通過のため決勝スタート順は2番目である。課題は全33手、13bである。國谷がオーバーハングにさ

しかかった22手まで登りフォール。杉本は、安間佐千がタッチしてフォールした終了点33手目に、同じくタッチしたところでフォールしたが、手の掛かりの違いで32プラスとなり個人2位、チーム順位を4位まで上げた。

成年女子リード決勝

1番手スタートである。萩原が29プラスでフォール、個人7位。坂本は20手でフォール、個人16位でチーム順位も予選と変わらず第8位であった。

(競技部委員長 山納秀俊、国体監督 石井昭彦)

・・・国民体育大会北海道予選会・・・

7月31日、8月1日に国民体育大会北海道ブロック予選会が札幌市で行われました。ボルダリング78名、リード77名、延べ155名の参加選手による予選会を実施し、上記のように国体（千葉国体）の北海道選手団が選ばれました。

ジュニア登山教室

1泊2日の日程で、道岳連・日高登山研修所および坊主山（予定でしたが、雨天のため中止）でジュニア少年少女登山教室を実施しました。参加者：子供8名、大人1名、スタッフ7名でした。

7月31日、1年ぶりに会う子供達は少し大人になっていました。今年初めて参加の子も2名おりました。子供達の楽しみはやっぱりクライミングです。今年はロープの結び方を教わり、登るのはそれからです。登り始めると、もう夢中です。

クライミングを終えると西瓜割り、地元日高町産の大きな西瓜で渴いた喉を潤おしました。その後は皆で夕食の準備、そして夕食交流会、花火と、夏の夜を楽しみました。しかし、天気予報は明日の悪天を知らせています。坊主山登山が心配されますが、明日、朝の天気判断しようと就寝す



るも、予報とおり夜半から雨となる。

8月1日、朝食前にスタッフ会議で話し合い、坊主山登山は中止とし山や、樹木についての講話とクライミングをする事にするが、「えー、山の話はもうイイヨー」と講話は子供達には不評で、クライミングだけとした。子供達は何時までも止めると言わない。雨も降り続き、帰り道も心配に成りだし午前中で終わりにする事にする。「まだやりたいー」と言う子供達に、「もう終わり!!」の先生の一言で仕方なくおし

